

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
名古屋ECO動物海洋専門学校		平成31年4月1日		木村 一郎		〒 460-0008 (住所) 愛知県名古屋市中区栄3-21-6 (電話) 052-269-3222				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人滋慶コミュニケーションアート		平成17年3月3日		近藤 雅臣		〒 604-8203 (住所) 京都府京都市中京区衣棚町51-2 (電話) 075-257-6507				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度				
文化・教養	文化・教養専門課程	エコ・コミュニケーション科 (昼間Ⅱ)		令和2(2020)年度	-	-				
学科の目的	ペットショップスタッフ、トレーナー、飼育員等に関する知識・技術の習得、また実践を通じて社会人として必要な技術力、人間力を身に付け、動物業界に柔軟に対応できる人材を育成する。									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	資格:コミュニケーションスキルアップ検定・潜水士 中退退学者: 6名(3.4%)									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			1,800 単位時間	1,470 単位時間	1,290 単位時間	- 単位時間	- 単位時間	- 単位時間
					- 単位	- 単位	- 単位	- 単位	- 単位	- 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)						
160人	173人	0人		0%						
就職等の状況	■卒業者数(C)		82人							
	■就職希望者数(D)		79人							
	■就職者数(E)		69人							
	■地元就職者数(F)		27人							
	■就職率(E/D)		87%							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		39%							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		96%							
	■進学者数		3人							
	■その他									
	資格取得3名・病気療養2名・就職活動継続5名 (令和4年度卒業者に關する令和4年5月1日時点の情報)									
■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 水族館、ペットショップ、アクアショップ、養殖所、ダイビングショップ										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無					
	評価団体:	受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL						
当該学科のホームページURL	https://www.nagoya-eco.ac.jp/course/									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)									
	総授業時数		1,800 単位時間							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間								
うち企業等と連携した演習の授業時数		240 単位時間								
うち必修授業時数		180 単位時間								
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間								
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		180 単位時間								
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間								
(B: 単位数による算定)										
総授業時数		単位								
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位								
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位								
うち必修授業時数		単位								
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位								
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位								
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位								
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に從事した者であつて、当該専門課程の修業年限と当該業務に從事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		13人							
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		22人							
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		1人							
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		8人							
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		31人							
	計		75人							
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		25人								

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携について、従来、学科の養成目的(学生が卒業時に身に付けておくべき能力)実現に向け、学校の教職員と業界で活躍されている兼任教員(非常勤講師)が講師授業科目の開設や授業内容の改善を図るため、年2回の講師会議を開催している。また、学生の卒業年次においては、非常勤講師以外の業界関係者も招聘し、学生の卒業研究内容を評価してもらい取り組みを行っている。設置する教育課程編成委員会においては、非常勤講師以外の業界関係者からの意見もより詳細に教育内容に反映されることを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校の教育課程編成委員会は、理事会のもとに設置され、委員会の適切な運営は理事長が担保することになっている。また、学校運営においては、教育組織規則において「委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従い、委員会を運営する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年9月20日現在

名前	所属	任期	種別
木村 一郎	名古屋ECO動物海洋専門学校 学校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
太田 彰	名古屋ECO動物海洋専門学校 運営部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
富田 和宏	名古屋ECO動物海洋専門学校 事務局長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
三好 咲衣	名古屋ECO動物海洋専門学校 教務部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
佐山 義則	公益財団法人 日本生態系協会 参事	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
妹尾 大輔	神畑養魚株式会社 東京支店副支店長営業本部マネージャー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年8月2日 15:20～16:50

第2回 令和5年3月2日 13:30～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

コロナ禍で顧客数が上昇していた動物業界は顧客離れが懸念される。動物業界がどのように変化していくか仮説を立てて教育内容を構築すること。ペットの高齢化・飼育者の高齢化も進んでいる中で、業界が欲しい人材はどの世代ともコミュニケーションがとれる若い人材である為、接遇に関して多くの経験を積むことが出来る機会が必要である。また、生体を扱う知識だけではなく、それを取り巻く器具や機器等多岐にわたる知識が必要である為、カリキュラム・教育内容に取り入れ改善を行う。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、即戦力としての職業人教育を行う為、業界と連携し、専門技術・知識、並びに人間力を持ち合わせた人材の育成を行っています。特に実習、演習科目においては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案し、その実施・達成評価を行ないます。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携企業と講師業務契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業をおこなっている。非常勤講師と学校が協議をし作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標へ達成度並びに学期毎の定期試験の結果をもって総合的に評価されます。

また、授業実施後は常に担当非常勤講師と学科専任教員は連携を密にし、情報共有を行い、クラス運営の問題解決に役立てると共に、今後の授業改善にも反映させていきます。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
飼育飼養管理	生体の飼育管理方法、飼育者に必要な技術と知識を実践的に学びます。	株式会社 エーピーエヌ 株式会社 名東水園
海洋・水生生物学Ⅱ	海洋生物・水生生物の進化、分類、生理、生態などについて学びます。	株式会社 エーピーエヌ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学園の定める教員研修規定において、複数回数の研修を通して、教員の授業内容・教育技法の改善並びにクラス運営方法の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的と定めています。

中途退学者防止に向けた「学生ひとり一人」に対する対応案の企画立案・実施・評価というPDCAサイクルを展開することを年間の教育活動の中心に据え、ファカルティ・ディベロップメント活動を推進する専任教員に対し、以下の二つの要素が年間を通じた授業内容に反映されるよう研修を行う。

①キャリア教育の視点、②ひとり一人を見て行く視点

さらに、専任教員と兼任教員で組織する講師会議においてこの方針を共有し、授業内容のチェック、教育技法改善に向けた研修を実施している。

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学園の定める教員研修規定において、複数回数の研修を通して、教員の授業内容・教育技法の改善並びにクラス運営方法の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的と定めています。

中途退学者防止に向けた「学生ひとり一人」に対する対応案の企画立案・実施・評価というPDCAサイクルを展開することを年間の教育活動の中心に据え、ファカルティ・ディベロップメント活動を推進する専任教員に対し、以下の二つの要素が年間を通じた授業内容に反映されるよう研修を行う。

①キャリア教育の視点、②ひとり一人を見て行く視点

さらに、専任教員と兼任教員で組織する講師会議においてこの方針を共有し、授業内容のチェック、教育技法改善に向けた研修を実施している。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	日本動物園水族館設備会議	連携企業等:	日本動物園水族館協会
期間:	2022年10月19日-20日	対象:	専任教員
内容:	全国の動物園・水族館における設備や照明が飼育に与える影響と効果など水族館での最新の研究発表から学ぶ		
研修名:	命の未来を創る水族館とは	連携企業等:	伊勢夫婦岩ふれあい水族館シーパラダイス
期間:	2023年9月27日	対象:	専任教員
内容:	来館者の満足と好奇心を掻き立てる展示を考え、野生動物のいのちを感じる展示方法について学ぶ		
研修名:	JAA第3回トレーニングセミナー	連携企業等:	一般社団法人日本水族館協会JAA
期間:	2022年11月9日	対象:	専任教員
内容:	飼育下鯨類、海洋生物に関する長期飼育・展示・教育・調査研究とトレーニングについて多角的に学ぶ		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	教職員カウンセリング研修 1次	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2022年9月26日	対象:	専任教員
内容:	滋慶学園グループ全教職員がカウンセリングマインドを身につけ、カウンセリングスキル向上を目指し資格を取得する。		
研修名:	教職員カウンセリング研修 2次	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2022年9月28日	対象:	専任教員
内容:	学生指導において事例検討を行い、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指し資格を取得す。		
研修名:	FDミドルレベル研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2022年7月13日	対象:	専任教員
内容:	FDマイクロレベルフォローアップ研修受講後、実際の授業の振り返りを行い、授業改善ができる。		

(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	2024年度 第1回講師研修会	連携企業等: アニマルウェルフェア国際協会
期間:	2024年3月予定	対象: 専任教員
内容	業界の変化を捉え、今後学生に何を伝えて行くべきかを共有し授業の方向性を考える。	
研修名:	2024年度 第2回講師研修会	連携企業等: アニマルウェルフェア国際協会
期間:	2024年9月予定	対象: 専任教員
内容	業界の動向を学ぶことを目的とし、専攻分野について最新のトレンドや技術、設備環境等を学び授業改善を検討する	
研修名:	FDミドルレベル研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間:	2022年7月13日	対象: 専任教員
内容	FDマイクロレベルフォローアップ研修受講後、実際の授業の振り返りを行い、授業改善ができる。	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	教職員カウンセリング研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間:	2024年9月中旬	対象: 専任教員
内容	滋慶学園グループ全教職員がカウンセリングマインドを身につけ、学生、保護者に対応できるようにスキル向上を目指し資格を取得する。	
研修名:	キャリア教育インストラクター研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間:	2024年1月下旬	対象: 専任教員
内容	キャリア教育を指導する上で必要な「成功の原則」を学び、シラバス作成と実行方針が立てる	
研修名:	キャリアサポート勉強会	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間:	2024年6月下旬	対象: 専任教員
内容	キャリアサポートアンケートの活用方法を学び、学生指導に活用する	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

卒業生代表、保護者代表、近隣関係者、高等学校関係者とともに、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が行った自己点検・自己評価の内容を通し、学校運営の改善に活かすことを方針としている。

評価項目としては下記とする

- ・教育理念、目的、育人人材像について・学校運営について・教育活動について
- ・教育成果について、学生支援について・教育環境について
- ・学生募集と受け入れについて・財務について・法令等の遵守について
- ・社会貢献について

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	ミッション・3つの教育理念・4つの信頼
(2)学校運営	事業計画・意思決定機能・目標管理制度・情報システム
(3)教育活動	産学協同教育・キャリア教育・講師研修
(4)学修成果	成績評価・単位認定・就職者数と就職率
(5)学生支援	就職支援・学費サポート・担任制度・学生寮・健康管理・卒業生
(6)教育環境	施設・設備、キャリアセンター、国際部、安全・防災
(7)学生の受入れ募集	学生募集要項・広告倫理規定・学納金
(8)財務	収支計画、財務情報、会計監査
(9)法令等の遵守	コンプライアンス、個人情報保護
(10)社会貢献・地域貢献	地球温暖化対策、地域との企業プロジェクト
(11)国際交流	ボランティア活動

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

安全・防災面から、地震時の動物の避難方法、水槽転倒のリスク管理等のご指摘をいただく。定期的な避難訓練だけでなく、動物を含めた避難訓練・消火設備の取り扱い方法等を含めた避難訓練を行うなど内容を改善する。

又、コロナ後の業界・企業は大きな変化が予測される。学生目線で細やかな支援を強化する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
勝見 ひろみ	愛知県立瀬戸西高等学校	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	高校関係者
原 大二郎	家庭動物診療施設 獣徳会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
佐山 義則	公益財団法人 日本生態系協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
深田 正雄	栄ミナミ地域活性化協議会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	近隣関係者
松葉 明則	在校生保護者	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	保護者
長谷川 真也	株式会社 名東水園	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.nagoyaeco.ac.jp/school/public_info/img/img_public_info/9_School_Personnel_Evaluation_Committee.pdf

公表時期: 令和5年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

事業計画の実行方針において、提起された目標を具体化するため、企業などから意見聴取を行い、業界の動きを踏まえた実行計画を作成している。具体的な事例として、講師会等にて企業課題や授業科目、内容について検討を重ね、意見を反映させてから、様々な企業との連携を図っている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	校長名、所在地、連絡先、学校の沿革、建学の理念、学校安全関連、保健対策
(2)各学科等の教育	受入方針、定員、在校生数、卒業生数、カリキュラム(教科課程表)、学年歴、シラバス、その他、卒業・進級判定基準、卒業と同時に取得する称号、学習の成果として取得を目指す資格・合格を目指す検定等、資格取得・検定試験合格の実績、卒業生数、卒業後の進路、主な就職先
(3)教職員	教員数、学校組織図、教員の実績
(4)キャリア教育・実践的職業教育	産学連携教育、コミュニケーションスキルアップ検定
(5)様々な教育活動・教育環境	設備紹介、海外研修
(6)学生の生活支援	中途退学防止への取り組み、中途退学状況、進路変更委員会、SSC、健康管理、カウンセリング研修
(7)学生納付金・修学支援	学費一覧、奨学金、教育ローン案内等
(8)学校の財務	財務資料
(9)学校評価	学校関係者評価委員会
(10)国際連携の状況	留学生支援、留学生の受け入れ状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.nagoya-eco.ac.jp/school/public_info/

公表時期: 令和5年6月1日

授業科目等の概要

#REF1	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法				場所			企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実	校内	校外	専任	兼任	
1	○			エコロジー概論	動物や自然環境を学ぶ上で、人間と動物を取り巻く環境について考えていきます。	1 通年	30	2	○			○		○	
2	○			アニマルベーシック	様々な動物に関する知識や技術を広げ広い範囲で動物の理解を深める	1 通年	60	4	○			○		○	
3	○			アニマルヘルスケア	動物の健康に関わる食餌・栄養管理や疾病、その対処法について学びます。	1 通年	30	2	○			○		○	
4	○			基礎獣医学(解剖・生理)	動物の体のしくみ・構造・機能などの解剖学と生理学について学びます。	1 通年	60	4	○			○		○	
5	○			外国語コミュニケーション	海外実学研修で必要となる外国の方とコミュニケーションを図るため必要な英語を学びます。	1 通年	30	2	○			○		○	
6	○			IT (Informations Technology)	コンピュータの基本的な使い方を学びます。	1 通年	60	4	○			○		○	
7	○			ビジネスマナー	コミュニケーション能力、社会人としてのマナー、一般教養・人前での話し方など就職に関する身構え・気構え・心構えについて学びます。	1・2 通年	120	8	○			○		○	
8	○			公衆衛生・関連法規	衛生の概論、ズーノーシスなどの感染症の原因を理解し、衛生管理について学びます。また動物に関する法律・保護管理法などの法規を学びます。	1・2 通年	120	8	○			○		○	
9	○			トリミングI	動物のグルーミング・トリミングについて学び、また美容部分における技術を実践します。	1 通年	120	8	△	○		○		○	
10	○			トリミングII	動物のグルーミング・トリミングについて学び、また美容部分における技術を実践します。	2 通年	120	8	△	○		○		○	
11	○			飼育概論I	動物の分類・疾病・繁殖について学び飼育に必要な知識を身に付けます。	1 通年	120	8	○			○	△	○	
12	○			飼育概論II	生体を用いて、飼育・管理する上で基本的な技術を学び適切な飼育管理ができる	2 通年	120	8	○			○	△	○	
13	○			動物看護I	動物の保定方法、一般検査など、動物看護学について学びます。	1 通年	120	8	○	△		○		○	
14	○			動物看護II	動物の保定方法、一般検査など、動物看護学について学びます。	2 通年	120	8	○	△		○		○	
15	○			動物行動学	動物の行動学について学び、しつけ・調教に必要な知識・技術を身につけます。	1・2 通年	120	8	○	△		○		○	
16	○			海洋・水生生物I	海洋生物・水生生物の進化、分類、生理、生態などについて学びます。	1 通年	120	8	○	△		○		○	
17	○			海洋・水生生物II	海洋生物・水生生物の進化、分類、生理、生態などについて学びます。	2 通年	120	8	○	△		○		○	
18	○			飼育飼養管理	動物の飼育管理、飼育員の仕事について学びます	1・2 通年	120	8	△	○		○		○	
19	○			ウォーターエクササイズI	泳カトレーニングを実施し、体力向上ならびにダイビングライセンス取得に必要な技術を身につけます。	1 通年	120	8	○			○		○	
20	○			ウォーターエクササイズII	泳カトレーニングを実施し、体力向上ならびにダイビングライセンス取得に必要な技術を身につけます。	2 通年	120	8	○			○		○	
21	○			進級制作	基本的な文章の書き方を学び、進級時に研究制作のため、論文を作成し、プレゼンテーションします。	1 通年	120	8	○			○		○	
22	○			企業研修I	現場で実際の仕事を体験し、自己研鑽を行います。	1 通年	30	2	○			○		○	
23	○			企業研修II	現場で実際の仕事を体験し、自己研鑽を行います。	2 通年	60	4	○			○		○	
24	○			卒業制作	社会人として必要な文章の作成を学び、卒業研究の論文を作成し、プレゼンテーションします。	2 通年	120	8	○			○		○	
合計						24	科目	2760 単位(単位時間)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	全学科、学生便宜にて、卒業認定要件を示し、卒業認定会議で中学校長	1学年の学期区分	2期
履修方法:	授業科目を履修して試験に合格すれば科目認定を与えられる。選択科	1学期の授業期間	15週

- (留意事項)
- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。